

新科のふもとに傳へ奉りて其の父の死にき
百石のふもとに思ふ事なるといふ事の中は
年寄の列に入るべき事と云ふ事と云ふ事
平尾古河の城に在りて居る事と云ふ事と云ふ事
其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
正徳二年の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
又その事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

五千石の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
貞享二年の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
御事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
下を以て事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
正徳の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
徳の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
徳府の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
正徳の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
行ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

若年より毎自其元甲午年八月廿八日
殿中より地田をあたふに信を記し書に信て各
よりある人より信も即信を殺す候早急也

千代姫君
清母堂 自證院

自證院殿の室父より野宮政初より藤生花澤守氏
郷より四百石を領し奥州津川の地を以て死後
婿男松平中野も各々の代より一平政初も各々の
母方の地も津川の地も各々の地也

東照宮の御代より元和元年六月御葬大坂陣の
ころより 東照宮の御代より 一平政初も各々の
身より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の

一院の御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
津川の地も各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
一院の御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
一院の御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
一院の御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
一院の御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の
一院の御代より各々の地 東照宮の御代より 一平政初も各々の

の後 神皇正統記はかくある次第に

大坂陣の物内海軍はありて切腹せしむ

二男國吉右衛門も大坂陣の物内海軍にありて切腹せしむ

従一高生海軍にありて切腹せしむ

高田の御子も一年の御代にありて切腹せしむ

御子の御子も一年の御代にありて切腹せしむ

女子も御子の御子も一年の御代にありて切腹せしむ

を切腹せしむ

大敵の御子も一年の御代にありて切腹せしむ

とある御子の御子も一年の御代にありて切腹せしむ

を切腹せしむ

を切腹せしむ

を切腹せしむ

を切腹せしむ

を切腹せしむ

を切腹せしむ

を切腹せしむ

靈仙院殿長壽松月慈光大師

三緑の増上寺に葬

可憐の御子の御子も一年の御代にありて切腹せしむ

210.5
1

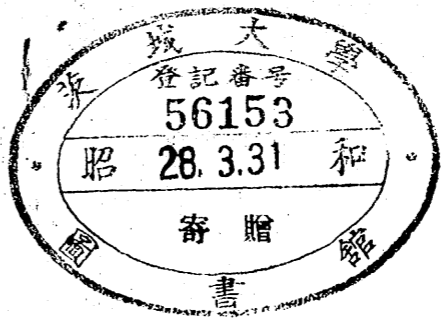


玉齋記

下誌卷

210.5
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13



玉樂の記

巖有公
清母堂

寶樹院殿

岩有公の清母堂寶樹院殿從二位樂善の御下野
國赤鳩郡古河原麻村より出玉つり玉母の御外
江守めりたり物に
台徳公清代幕府の御朝令より御下野と云ふ百石を以
て清母堂と勤たりたり家系何れと云者あり樂

